

令和3年度法務省委託事業

ハンセン病問題に関する
親と子のシンポジウム

報 告 書

令和3年度法務省委託「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」実施完了報告

1 実施概要

- (1) テーマ： ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』
- (2) 日 時： 令和3年11月13日（土）午後1時30分～午後4時
- (3) 形 式： オンライン（リアルタイム）配信
Gメッセ群馬（群馬コンベンションセンター）2階中会議室201・202（群馬県高崎市岩押町12番24号）をメイン会場として配信
- (4) 対象者： 一般市民 ※ 参加費無料
- (5) 主 催： 法務省、厚生労働省、文部科学省、全国人権擁護委員連合会、前橋地方法務局、群馬県人権擁護委員連合会、公益財団法人人権教育啓発推進センター
- (6) 後 援： 中小企業庁、全国ハンセン病療養所入所者協議会、ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国原告団協議会、ハンセン病家族訴訟原告団、群馬県、草津町、中之条町、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会、群馬県市長会、群馬県町村会、上毛新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、日本財団（順不同）
- (7) 内 容：
- 開会～主催者挨拶
 - ビデオ上映「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」
（令和2年度法務省委託） ※ 一部抜粋上映
 - 基調講演
 - ・講演1 ハンセン病問題と偏見・差別の解消に向けて
吉幸かおる（群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざし、ともに生きる会副会長）
 - ・講演2 「特別教室」の記憶を掘り起こす～重監房資料館の設立とその活動～
黒尾和久（重監房資料館部長）
 - パネルディスカッション
 - ・パネリスト
清水蒼空（群馬県中之条町立六合中学校3年）
狩野大樹（群馬大学社会情報学部4年）
 - ・コメンテーター
吉幸かおる
黒尾和久
 - ・コーディネーター
藪本雅子（フリーアナウンサー・記者）
 - トークショー「ハンセン病問題について」
 - ・ゲスト
石井正則（俳優、写真集『13（サーティーン）ハンセン病療養所からの言葉』著者）
 - ・コーディネーター
藪本雅子
 - 閉会

2 目的

令和元年6月28日、熊本地方裁判所において「ハンセン病家族国家賠償請求訴訟」に係る原告勝訴の判決が言い渡され、同年7月12日には「ハンセン病家族国家賠償請求訴訟の判決の受入れに当たっての内閣総理大臣談話」が公表された。

ハンセン病元患者のみならず、その家族がおかれていた境遇を踏まえ、今後、家族への偏見・差別を解消し、家族関係が回復されていくよう社会の意識改革を行っていかねばならない。

ハンセン病問題に関する正しい知識を持ち、ハンセン病元患者やその家族がおかれている現実を理解し、その人々の人権について次世代へも継承するため、当事者の声を聴き、親子で考えていくためのシンポジウムを開催する。

3 参加者数等

1, 761人 (YouTube「ユニーク視聴者数」)

※参考：同「視聴回数」2, 143回

同「最大同時視聴者数」258人

4 配信の様子 (画面イメージ)



ライブ配信前：案内



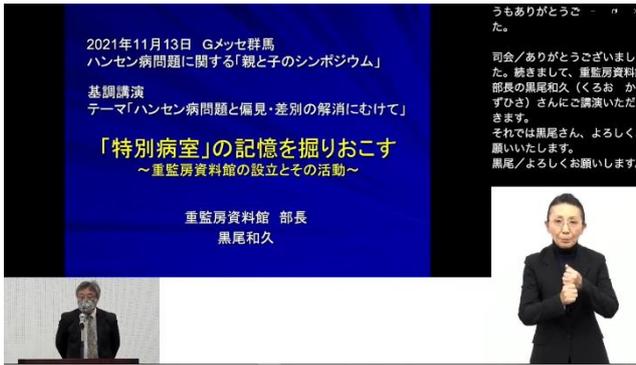
主催者挨拶



ビデオ上映



基調講演：吉幸かおる（群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざし、ともに生きる会副会長）



基調講演：黒尾和久（重監房資料館部長）



パネリスト：清水蒼空（群馬県中之条町立六合中学校3年）



パネリスト：狩野大樹（群馬大学社会情報学部4年）



コーディネーター：藪本雅子（フリーアナウンサー・記者）



トークショー：石井正則（俳優、写真集『13（サーティーン）ハンセン病療養所からの言葉』著者）

〔別添〕

- ・当日配布資料（ダウンロード用プログラム）
- ・アンケート集計結果
- ・採録記事（誌面イメージ）

5 オンライン（アーカイブ配信）

本シンポジウム終了後、YouTube 人権チャンネルにおいて、オンライン（アーカイブ）配信を実施。（令和3年12月8日（水）の公開から1年間限定）

2021.11.13 令和3年度「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」

https://youtu.be/a0hpdN3M_rY